

平成24年度実施 学校評価アンケート（教職員）の結果について

【目的】 以下により、本校が目指す文武両道の指導の充実を図る。

- 1 今年度の重点課題についての取り組みを検証する。
 - 2 学校教育全般について、成果と課題を明確にする。
- ※ 自己評価（学校評価ガイドラインより）
学校評価の最も基本となるもの。設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行う。

【分析】

- 1 今年度の重点課題について
 - (1) 学業全体の基盤である基本的生活習慣の定着
質問9「基本的な生活習慣の意義が学習指導・進路指導との関連で適切に指導されている」の評価は4.0と比較的高く、質問16（学習指導）、質問23（進路指導）とともにほぼ達成されていると考えられる。しかし、個別の指導については、質問20（遅刻指導）の評価が高い一方で、質問21（服装指導）の評価が低く、服装指導等についてあらためて共通理解と取り組みが必要である。
 - (2) SSHの取り組みによる生徒の変容とその評価
質問13「SSHの取り組みは全校体制として行われている」の評価が3.4と低い。一方で、質問12（SSH等の教育課程編成）の評価が高いことから、SSHの取り組みに一定の理解があるものの、授業展開等への関わり方に差があったものと考えられる。このことについては、質問14（SSHによる生徒の学習意欲向上）や質問15（SSHによる生徒の資質能力の向上）で評価が分かれていることにも表れている。
SSHの取り組みは学年進行で行っており、平成25年度は1学年・2学年生徒が対象となる中で、職員全員の関わり方や情報発信に検討と工夫が必要である。
- 2 評価全般について
 - (1) 学校運営
質問1「学校教育目標は、生徒の実態や保護者、地域の願いを踏まえたものとなっている。」の評価が高い一方で、質問3（組織・業務の改善）の評価が低いことから、学校教育目標について理解が得られているが、その具体的な改善の手立てについて課題があると考えられる。
 - (2) 情報共有・情報交換
質問4（連携）、質問5（研修）、質問7（情報交換）いずれも評価が低い。昨年も課題としてあげられていたが、学年あるいは教科・分掌間の積極的な情報交換に努める必要があると言える。
 - (3) 人間形成・教育課程
質問7（人間形成）、質問8（教育課程）ともに評価が高い。これについては、質問16（学習指導）、質問18（生徒の実情把握・授業計画）、質問23（在り方生き方・進路指導）、質問24（生徒の主体的な活動）、質問25（リーダーシップ・チームワーク）の評価が高いことと合わせて成果と言える。ただし、質問7の内訳で「どちらかと言えばそうは思わない」の回答が14%あり、このことを踏まえた改善の手立てが必要である。
 - (4) 学習指導
質問16（授業・教科指導）、質問18（授業計画）は評価が高いものの質問17（授業改善）は評価が低い。授業改善については、あらためて校内研修の取り組みが必要と考えられる。
 - (5) 個に応じた指導
質問19（悩みやいじめ等への対応）、質問20（面談体制）いずれも昨年以上の高評価であった。取り組みに負担はかかるものの、その対応に理解が得られていると考えられる。
 - (6) 進路指導
質問21（方針の説明）、質問22（情報提供）とも昨年を上回る高評価であった。質問23（在り方生き方・進路指導）も昨年を上回っている。進路指導全般にわたって共通理解が得られていると言える。
 - (7) 地域との連携
昨年同様、質問29（地域の声を聞く機会）、質問30（地域の活動や行事への参加）の評価が低く、学習指導やHR活動、学校行事、部活動等での取り組みが必要と考えられる。